
T a l k

ういん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Tank

【著者名】

ういん

N0426M

【あらすじ】

シロガネ山にて少し寂しくなったレッドの話

人と話すことは苦手だ
だから一人でいるのはラク
でも一人が寂しくないわけじゃない
「…………寒い。」

人と話すことは苦手だけど、話しかけられるのはイヤじゃない。
マサラにいた時、自分はやっぱりあまり話さなかつた。
けど、周りの人たちが話していた。
話しかけてくれた。

俺はその話を聞いているのが好きだつた。
でも、今は……

ここは吹雪の吹き荒れるシロガネ山。
人などめつたに登つて来ないこの場所に聞こえてくるのは風の音だけ。

なんだか無性に、寂しくなつた。

「…………寒いよ。」

体を抱えるように蹲る。
すると急に背中に重みがかかつた。

「ピカ?ピカチュ?」（レッドー・ビッシュだの?）

「…………ピカチュウ?」

「ピカ?ピカチュ?」（寒いの?お腹空いたの?）

「ピカチュウ、お前 . . .」

背中から、今度は膝の上に降りてきたピカチュウをギュッと抱きしめる。

（・・・あつたかい。）

「チューー・ピッカ、ピカチャーー」（ちよつとー・レッヂ、苦しいよつー。）

「じめんじめん」

抱きしめる腕の強さを少し弱める。

「ピカピカピー。」（まつたくもり。）

「だから悪かつたつてば」

そう言つて頭を撫でてやると、ピカチュウは氣持ちよむやうに「ピカ！ 」と鳴いた。

（・・・せうだ。）

唐突に思い出した。

さつきまで俺は、「」の雪山で一人ぼっちだと思つていた。でも、違う。

確かに人間は自分以外にはいないだろ？ だけど俺には、こいつが、「」にいるじゃないか。大切な、大切な相棒たちが。

「・・・ピカチュウ。」これからも、よろしく。

「？ ピッピカチュウ！」

空気は相変わらず冷たく寒かつたけど、何故かさつきより暖かい。
そんな気がした。

「ピッカ、ピーカピカピカチュー！」（レッド、なんだか今日はよく話すね！）

「・・・・・ そ う か な ？」

「チューー！」（やうだよー！）

「まあ、たまには良いだろ？」

今日は自分は一人でないと、再確認した日だから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0426m/>

Talk

2010年12月10日23時52分発行